別紙

高温少雨による農作物への影響について

平成２２年８月２０日
農林総合研究所

1　気象の経過・今後の見通し

・７月１７日の梅雨明け以降、降雨が少なく気温が高い状態が続いている。７月下旬から８月中旬（18 日まで）の降水量は、鳥取で 101mm（平年比 29%）、米子で 130mm（同 27%）にとどまっている。また、同期間の日平均気温は、鳥取で 29.4 度（平年より 2.4 度高い）、米子で 29.8 度（同 2.9 度高い）と高く推移している。

・８月１４日発表の１か月予報では、向こう１か月は平年と同様に晴れの日が多く、期間の前半は気温の高い状態が続くとみられる。

2　農作物生育への影響と予測（8 月 17 日現在）

作目等		生育への影響
作物	水稲	・出穂前後の高温による白濁未熟粒の多発が懸念される。 ・内穎褐変病（ないえいかっぺんびょう）が多発傾向にある。 ・カメムシの発生が多く、斑点米被害粒の発生が懸念される。
	大豆	・高温乾燥により葉が萎れたり反り返っており、さや数の減少、収穫期の青立ち被害が予想される。
果樹	なし	・高温による「葉やけ」（褐変）症状がみられ、激しく落葉した園もみられる。 ・ハウス「二十世紀」の果実の一部に「日焼け」症状（極端に黄色くなる）がみられ、今後出荷される品種にも発生することが予想される。
	かき	・「日焼け」果が多く発生しており、収穫果の品質低下が予想される。
	ぶどう	・一部の園で土壌水分不足による果粒の軟化がみられる。
野菜	白ねぎ	・夏ねぎ、秋冬ねぎで葉先枯症状が増加し、生育不良や欠株も出ている。 ・春ねぎでは、箱育苗での苗立枯れが増加し、定植苗の不足が懸念される。地床育苗では葉先枯と、定植後の欠株が増加している。 ・軟腐病（なんぷびょう）、萎凋病（いちょうびょう）、白絹病（しらきぬびょう）、ネギアザミウマの発生が多い。
	ブロッコリー	・育苗中の苗の一部で根痛みが発生し、生育にムラが生じている。 ・定植後の苗の一部（1 割以下）が枯死しているが、補植により対応している。
	ナガイモ	・一般のナガイモでは茎葉の繁茂状態が例年よりやや劣っている。 ・ねばりっこでは、茎葉の繁茂状態は例年並みだが、葉焼け症状がみられる。
花き	ﾘﾝﾄﾞｳ	・高温の影響で開花が遅れ、出荷できないものが見られる。
	ｼﾝﾃｯﾎﾟｳﾕﾘ	・抑制作型では高温の影響により葉先枯れが見られる。また、茎の伸び出しが遅れ気味で収穫の遅れが懸念される。
	ストック花壇苗等	・ハウスの開放や遮熱資材による被覆などが不十分な圃場で、発芽のムラが見られる。
飼料作物	デントコーン	・子実の充実が早くなっており、葉の巻いているものや根腐病（ねぐされびょう）も見られるが、既に収穫が進んでいる。
	夏牧草	・一部で立ち枯れがみられる。